

## 「撞木の重み」

りんぼうじ つづらぬき きしょう  
熊本県隣峰寺住職 葛籠貫 喜昭

季節は師走に入り、今年も残り僅かとなりました。

一年の終わりの大晦日の夜には、多くの寺院において除夜の鐘が打ち鳴らされます。曹洞宗のご本山『總持寺』にも、山門から左側の小高い丘に「大梵鐘（おおぼんしょう）」があります。この鐘は今から103年前の大正2年、多くの方の願いと祈りを浄財にして鑄造され、重さがなんと18トンもある大きな梵鐘で、大晦日には一般の参詣者も大梵鐘を撞くことができます。梵鐘の鐘の音には、苦しみや悩みを断ち切る力が宿っていると考えられています。

修行時代の仲間が作った歌を紹介します。

### 「故郷の 母に届けや 打つ鐘の 撞木の重み 胸に伝えて」

～いまご本山で修行をしています。お母さん聞こえますか？

故郷（ふるさと）を離れて、親元を離れてみて、厳しい環境の中で、寂しさと孤独感にさいなまれて、人間関係もうまくいかず、独りぼっちのようでとても辛く苦しい時期がありました。

しかし在る時気がつきました。それは私の勘違いでした。私は一人では無かった。苦しいのは皆同じ。今私には修行を共にする仲間がいる。辛く苦しいのは私一人ではなく、皆同じ境遇であり、苦しみを共にする仲間の存在がある事に気がつきました。

そう思うと今まで自分が気がつかないだけで、沢山の方々のおかげで生かされ、支え頂いた人達の存在に気が付かされました。もちろん修行前は、親の有り難さなども考えてもみませんでした。修行を始めて、改めて自分を見つめ直す機会を頂き、多くのご縁によって支えられている自分に気がつき、今、ここに、私が居る。決して人は、一人では生きていないのだ、と。～

「私と一緒にいてくれてありがとう。」と、歌を作った彼は私に告白してくれました。

鐘の音は、同じように聞こえますが、一声一声、音が違います。季節や天候でも音色は変わります。しかし一番違うのは、梵鐘は人が撞くものです。鐘を撞く人間、撞く人の心がけ一つでも音は変わってくるのです。でも変わっているから良いのです。人にはそれぞれ個性があり、迷いながらもあるがまま、自己を見つめて一步一步前に進む。それが修行。そしてそれが人生の修行でもあるのです。

師走。なんとなく慌ただしく心もせかされるような日々が続きます。梵鐘の音色を聞きながら、今一度素直な自分に立ち返り、サンゲと感謝の気持ちで、心の転換を計ってみてはいかがでしょうか。 了